古代文学会　２０１５年度企画

古代文学における地域性

―音と文字から考える―

シンポジウム

入場無料・会員以外の方も自由に参加できます。

日時　2015年　7月4日（土）　13:00～17:30

会場　共立女子大学　神田一ツ橋キャンパス本館（地下鉄神保町駅下車）

【パネリスト】呉　哲男「音と繋がる帝国―漢字文化圏の内と外―」

谷口雅博「地名起源説話と土地の言葉」

渡部亮一「日本国の「五辛」―善珠『梵網経略抄』とその周辺―」

夏期セミナー

日時　2015年8月19日（水）～8月21日（金）

会場　箱根小涌谷温泉　旅館千條

【発 表 者】猪股ときわ「古事記歌謡の地域性」

太田真理「万葉歌にみる地域性」

兼岡理恵「風土記歌謡の「地域性」を問う―オケ・ヲケの歌謡を中心に―」

三品泰子「『古事記』応神天皇をめぐる言葉の響き合い

―入鹿魚の漂着と「つぬがの蟹」の歌の関係から―」

山本大介「予兆歌謡の〈音〉と〈文字〉―『日本霊異記』を中心に―」

※発表題目は変更になる場合がございます。

古代文学会叢書 Ⅳ

『聖典と注釈―仏典注釈から見る古代―』

山口敦史 編

奈良時代の仏典注釈は今まで低い評価しか与えられてこなかったが、最近徐々に注目を集めるようになった。本書では、この仏典注釈に焦点をあて、古代文学日本の新たな視点を究明していく。

四六上製・294頁　3150円（3000円）

はじめに・山口敦史

終わらない聖典―善珠のまなざされる体験―・渡部亮一

善珠撰述『本願薬師経鈔』と引用典籍・山口敦史

大祓の詞の成立―日本古代の薬師経受容をめぐって―・関口一十三

仏教と万葉挽歌―「横死」と出雲娘子挽歌をめぐって―・保坂秀子

「霊異」と仏典注釈

―『日本霊異記』下巻第二十六縁をめぐって―・津田博幸

善珠撰述『本願薬師経鈔』と引用典籍・山口敦史

不定姓と景戒

―『日本霊異記』下巻第三十八縁と五姓各別説をめぐって―・山本大介

奈良時代後半期における儒仏一致観形成

―法進「沙弥十戒并威儀経疏」を両期として―・冨樫　進

日本古代の「堂」と仏教

―『東大寺諷誦文稿』における「願誘言」を中心として―・藤本　誠

古代文学会叢書（全五巻）

既刊分好評発売中

古代文学会叢書 Ⅰ

神の言葉・人の言葉―〈あわい〉の言葉の生態学―　岡部隆志　丸山隆司 編

第一章 日本語の不安／1「神の言葉」の言語観・折口信夫・時枝誠記・吉本隆明・岡部隆志／2表象としての〈日本語〉・丸山隆司　第二章 宮廷文化の中の言葉／3「草木言語」論・オノマトペの発生・清水章雄／4律令官人の言葉の位相・「遊行女婦」の発生・飯田　勇／5「まなさし」の生成／おもう歌者・安仁屋真昭と「安仁屋本おもろさうし」との対話・大胡太郎　第三章 神・共同体・言葉／6南島の神話生成と巫女のことば・保坂達雄／7対立構造と反転表現・ヤミ族の掛け合い歌・曽川隆一

四六上製・300頁　2730円（2500円）

古代文学会叢書 Ⅱ

声の古代―古層の歌の現場から―　工藤　隆 編

声の神話と文字の神話・古層モデルで古事記を読む・工藤　隆／歌垣の歌の論理―中国少数民族白族の歌垣を参考に・岡部隆志／モソ人の歌掛けと万葉和歌・古代和歌における比喩表現の生態論的考察・遠藤耕太郎／坂の向こう・壮族の歌垣と日本の歌垣・手塚恵子／死霊の歌・ヤミ族の掛け合い歌・曽川隆一／奄美の呪歌と古代文学・真下　厚

四六上製・326頁　3675円（3500円）

古代文学会叢書 Ⅲ

〈源氏物語〉の生成―古代から読む―　津田博幸 編

序・津田博幸／黄泉国訪問神話と源氏物語・イザナキを見失う六条御息所・岡部隆志／「手」と「誓」と―一〇世紀の音楽をめぐる言説・猪股ときわ／琴の譜の系と回路―物語言説を浮遊する音・上原作和／王の庭園―「うつほ物語」吹上巻から「源氏物語」胡蝶巻へ・西本香子／「宮柱」考―「源氏物語」における〈日本紀〉生成・楯岡知子／日本紀講からみた「源氏物語」―仮名で書くことをめぐって・津田博幸／秘匿された〈歌〉の位相―「源氏物語」若菜・あるいは歌の父母・阿部好臣／一条天皇の辞世歌―風の宿りに君を置きて」―皇后「定子」に寄せられた〈御志〉・圷　美奈子／現代の批評論は、どうして「源氏物語」に適用可能なのか？―「源氏物語」と「表象＝代行」機能・助川幸逸郎

四六上製・248頁　2730円（2600円）

（お問い合わせ先）
武蔵野書院
〒101-0064
東京都千代田区神田猿楽町二丁目十一番地
電話　03-3291-4859

古代文学会　http://www.ne.jp/asahi/kodai/bungaku/